

# 違う視点を持つことの大切さ

仲嶺 真弓

6月、季節は夏へと向かっています。5月後半からの暑い日差しに昨年の酷暑を思い出さずにはられません。今年の夏はどれくらいの暑さが待っているのでしょうか…先が思いやられますが、季節を楽しむ気持ちは残して暑い季節を乗り切りたいと思います。

この時期になると必ず思い出し考えることがあります。忘れてはいけない“戦争について”です。戦後74年目を迎える日本。あの戦争から何を学び後世に残せるのかが大人の私たちの役割です。戦争体験をしていない世代の私たちこそ、いろいろな戦争体験記や記録本を読み、あの時代を生きた先人に思いを馳せなければいけないと思います。つばさっ子5月号の巻頭では、歴史の一端を少し書き残しておこうと思い、改元の祝賀ムード一色の話題に少し触れたのですが、改めて読み返してみると同じような内容報道しかししないマスメディアに踊らされている感は否めません。マスメディアの報道は、一方向の見方にしかすぎないという視点もあることを忘れてはいけないと思っています。物事にはいろんな角度からの見方が必要です。私自身も何が良くて何が良くないのか答えはまだまだ模索中だけれど、子どもたちに戦争の体験だけはさせたくないという気持ちだけははっきりしています。だからこそ皇室問題も政治問題も外交問題も、知らないなりに視野を広げて、何がどう戦争の歴史に繋がっているのか考え続けることが今の自分にできることなので、諦めずに考え続けたいと思います。

## 【 子どもたちの安全を考える 】

5月は、他府県で保育園児が巻き込まれる痛ましい事故が続きました。8日 滋賀県大津市で起きた事故は散歩中の園児に車が突っ込み、2歳の園児が2名死亡、複数人重体と聞き、胸が痛みました。15日には千葉県市原市でコインパーキングから急発進した車が降園の砂場に突っ込み、保育士1名が園児をかばって怪我をするというニュースを聞き、どこでどんな事故と出くわすかわからないことに恐怖を感じ、つばさ共同保育園でも職員会議の議題にあげました。つばさ地区お散歩マップを見ながら、信号や横断歩道が少ないつばさ地区内散歩の危険箇所や安全確保を確認し共通認識しました。

会議ではもう一つ議題にあげたことがあります。園内で過ごす子どもの服装(スカート・短パン)についてです。日々の保育での職員共通対応は、遠出の散歩に行くときは、できるだけ長ズボンに履き替えるようにしています。やぶなどに入ることや、土手を滑り降りることもあるので虫刺されや、こけてケガをすることを防ぎたいからです。園庭や近辺散歩では特に着替えはしていません。しかし露出度が高い服装については、パンツが見えない服装に必ず着替えるよう子どもに声をかけているという職員がいました。理由は、どんな大人が露出度の高い服装の子どもをどのような目で見てかわからないので、そういった服装を避けることで子どもに自分の体は自分で守ってほしい思いがあるからということでした。その意見を発端に、「どの長さまではOKなのかは、職員によっても違う」「職員によって極端に対応が違ったら、子どもが困っているし、誰か(職員)に叱られるからやめとこうという状況にもなっているのはよくない。」「服装を注意するよりも、パンツが見えている場面があるなら、見えないように都度声掛けをする」など、様々な考えを話し合いました。

子どもが好きな服を選んで着る気持ちを大切にしつつ、状況に応じた子どもに伝わりやすい声掛けを大人が日々していくことを確認して会議を終えました。職員はこんな風に考えていますが保護者の方の考えはどうでしょうか。

## 【 親子まつり、楽しんでもらえましたか? 】

参加世帯は、89世帯中61家庭 でした。

当日は青空。暑いぐらいでした。オープニングはホールで職員紹介から始まり、各クラスの取り組み(0・1歳児は室内で保護者が製作してくれた的あて遊び、2歳児は4号公園散歩、3歳児はホールで親子一緒のミニ運動会、4・5歳児はいつもお世話になっている中尾さんの芋畑散歩~少し農業体験~)に分かれて楽しみました。エンディングは職員のパフォーマンス(誕生日会でもおなじみのアンパンマン)で会を終えました。

今年度の親子まつりも、カンガルーの会事務係に連絡をお願いし、イベント係・親子まつり担当職員が集まって内容を取り決めました。毎年、ババクッキングが延期になることが多く、今年度は親子まつりとタイアップできないかという職員案も提案させてもらいました。保護者の意見は、「親子で日頃の保育を楽しみたい」という意見が多かったので、その内容で決定しました。当日はいつものお散歩コースや、散歩の道中で子どもたちにどんな言葉かけをしているか、室内遊びでもどんなことをして楽しんでいるのかなど、日頃の保育の一場面を知ってもらえたのではないのでしょうか。親子まつりは、保護者と職員が1日を楽しく過ごすために知恵を出し合って企画を考えることができる行事です。来年の親子まつりもそのスタイルを大切に企画したいと思っています。ご協力ありがとうございました。

※6月から0・1歳児フリー担当職員の長野が担任として位置づきます。